

【熊本S. J. C. D. 例会抄録】

演題 顎位の設定に苦慮した1症例

演者名 栗原健一

日付 2011年3月22日

keywords

1. 中心位
2. 中心咬合位

抄録

症例は60歳男性、初診は2008年8月、右下臼歯部の腫脹および咬合痛を主訴に受診されました。右下7番、右上7番、左下7番が歯根破折を起こしており、2次カリエスもありますが破折の原因は主に咬合に問題があると考えました。

中心位において破折歯に早期接触が認められましたので、補綴は早期接触がなくなるように作製することを目標に治療を行ないました。

処置及び経過

2008年9月に破折歯の抜歯。

2009年4月に欠損部にインプラント埋入。

2009年9月～12月までTEKの調整および経過観察。

2009年12月に最終補綴物を作製。

2010年1月～メンテナンス

今回のケースにおいて、ある程度の咬合の回復は得られたと思いますが、反省点としてしっかりした咬合が作れていません。挺出、咬耗などで位置異常を起こしている歯を基準にした事が顎位が定まらなかった原因と考えます。

諸先生方の御指導の程宜しくお願い致します。